

經濟提要

下

外書冊

論學議政

和書門類	二四二八號	六五函	二架	二冊
------	-------	-----	----	----

內閣文庫	和書
二四二八號	二架
六五函	二冊

內閣文庫	
番號	和 24288
冊數	2 ( 2 )
函號	182 508



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



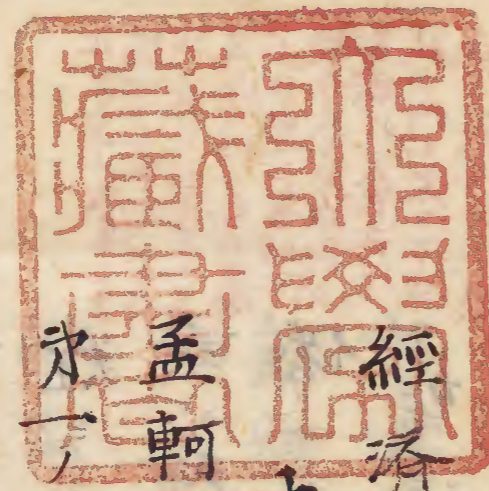
淺草文庫

經濟提要下卷

六府政要

孟軻子曰諸侯之寶三土地人民政事其

寶一也土地能ク其人民ヲ教道守シカラ



土地ノ經營シテ罔尺シテ此ヲ經營セザレバ上下困究シ國ヲ立ルコトヲ

得ヘカラス故ニ土地ヲ領スル者ハ經濟六要ヲ務メ

棲居ナル者ニ故ニスシハアルヘカラス六要トハ即チ水土ヲ平ケ耕種

骨ヲ折テ此ヲ開ク精クシ山沢ヲ開キ河海ヲ理メ百工ヲ興シ商

賈ヲ輕ス是ナリ各府ヲ立テ奉行ヲ置キ其

可勉哉

部下ノ民ヲ帥ヒ其業ヲ励メシメ心カチ及ミシ  
テ故事ヲ脩ヘシ

凡土方ノ政事ニテ  
最心ヲ尽スヘキハ  
祖神ノ祭事ナリ夫  
夫祖神ノ祭事ニテ  
君カ奉行自臨テ  
敬ヲ尽シ方民ヲ  
和樂ニ養ヒ老ノ  
礼ヲ行ヒ大ニ下民  
ニ酒ヲ飲シテ其  
其業繁昌

① 水土ヲ平クトハ昔禹王ノ高山大川ヲ奠タル  
如ク諸山ヨリ出ル大小ノ河水ヲ導テ順流  
セシノ諸河ニ堤坊ヲ築テ洪水ノ溢流亡事ノ  
難ヲ除キ或ハ河水ヲ堰揚テ此ヲ溝洫ニ灌キ  
或ハ所ニ溜池ヲ鑿リ堀ヲ開テ用水ヲ  
備一承ク旱損ノ患ナカラシメ或ハ城郭ヲ築キ橋  
架渡レ或ハ道路ヲ修理シテ往來ニ便レ或ハ湖

セシテ国家必ス  
表徴スルモノニ  
神事ノ礼ハ早カ  
経済要録ニ詳  
ナリ且下ノ農  
事府ノ条下ヲ  
見合スヘシ

水海河市ヲ埋テ新田トナシ曠野ヲ墾シテ  
新畑ヲ開クホノ一ニテ今世ニ土方普請ト称ス  
ルノ業ナリ柳北土方普請ハ衣食住ノ根本ニテ  
國家經濟ノ基原ナリ何トナレハ四土アリト虽モ  
海河ニ隈防ノ備ナクハ海笑ト洪水ノ畏アリ君  
夫海笑洪水ホノ難アルカハ城郭鄉村田畠園  
林悉ク流亡役失テ人民衣食住ノ源ヲ滅却ス  
溺死セテハ飢寒ニ斃ルベシ且又旱魃災  
アルハ百穀百草皆枯死ヲ以テ此モ亦人民ノ

祭法曰昔共工氏之霸九州也其子曰后土能平九列故祭以爲社土方普請ノ祖神ニテ漢土ニテ

衣食ヲ絶ス水難ト旱災ハ聖人ノ世ト虽往レモコ  
レアルト古来其例少カラス衣食モ十ク居レモナク  
ニ何ヲ以カ國家ヲ建ニキ故ニ國ニハ隄防堅固ニシテ  
然後ニ居住ヲ保ズヘク用水流灌キテ然後ニ田  
疇ヲ耕スヘシ故ニ三事ノ秘訣既ニ熟知スルノ  
上ハ六府ノ故要ヲ講明セスニハアルヘカラス六  
府ノ故要ハ土方普請ヲ最初トス是衣食  
住ノ基源ニシテ經濟道ノ根本ナルヲ以テナリ  
故ニ必ス官府ヲ立テ奉行ヲテキ以テ其政

社ト称スル者即此右土ノ祠ナリ  
因テ按ニ皇國ニ於テ土方普請ノ祖神ハ大名持神ナリ  
宜ノ社ヲ立テ崇祭スニ漢武帝ノ時ヲ黄河溢テ年々水難ニ困ニシテ天下ノ財用ヲ尽シテ嚴重ナル隄防ヲ築カレ水難平キテ後ニ河東行テ后ニテ祭ラレタルト見ユ是后土ハ土方普請ノ祖神ナルヲ以テナリ知ルニ

事ヲ嚴明ニスヘシ乃チ此水土府ノ奉行ハ六  
奉行亦一人上席タリ  
古来人民ヲ士農工商ノ四ニ分テ各其  
事ヲ勤サセタル者ナレト今此六府ノ制度  
ヲ立テ六要ノ改革ヲ行ハハ一軍農山海工  
商ノ六民ニ分テ各其府ニ配シ各自ノ業ヲ励ム  
ル片ハ各ニク事順ニシテ改テ行フニ便ナリ且大  
國事ニ益アリ其記ト云ハ軍民多ク集リ  
武備甚ク精銳ニナリテ万一警アルモ其

利極テ大ナリ  
所謂土方普請ニ用ル人夫  
ヲ悉ク軍役ノ人救ト定メ置キ其外諸道駅  
場ノ物持人足及ヒ雲助車力仕事士爲者火  
消人足ホモ亦皆悉ク此府ノ配下ニ属ス  
故ニ此奉行ハ軍民ヲ支配ス

大國ハ小奉行救人アルヘク且配下ノ役ヲ勤ル諸  
士モ亦救多有テ駅場中ニ彼ヲ置キ出  
役シテ其改革ヲ行フヘシ

土方普請ノ仕方ノ下ニ總論及ヒ普請所

ノ取計方ヨリ新堤築立ノ諸法切テ修復  
埋坪積方ノ諸法砂堤石堤石積浪除ノ  
石垣石出卷蛇鼈蛇鼈出大鼈出根鼈敷  
鼈落鼈帶鼈襟鼈ホノ仕方カウソ沉枰枰出  
継枰片枰土出種々羽口ノ仕方板出鉢卷  
竹ノ挾掛鏢掛ニ様根杭カウソ柵立竹ノ両  
様其他隻牛柵牛大聖牛大厘牛菱牛尺  
木牛尺木垣明木牛繫牛大牛垣猪子  
ホノ製作及ヒ用水普請新堀池及ヒ

坎樋ノ土方記及美濃関東四流ノ法繰  
樋埋樋豎樋掛渡并其他堰杵及ヒ水  
道ノ仕方土橋板橋石橋刎橋釣橋棚  
橋鱗杵ホノ製法且石普請ノ目論見ノ始  
未ハ公儀ノ御定法ヲ始トシテ諸家ノ発  
明ニテラ悉ク記シタルハ隄防溝洫志ナリ此書  
ハ先年太夫ニ傳授セリ校合スヘシ

國家ニ主タル者ハ食膳衣服宮殿玩物ホハ何  
様ニ儉<sup>シ</sup>蓄<sup>マツ</sup>シテ暮スト虽<sup>レ</sup>凡<sup>レ</sup>絶<sup>テ</sup>害ナキ者ナリ然ルニ

此土方普請ノミハ方一少<sup>シ</sup>ニテモ儉<sup>シ</sup>吝<sup>ク</sup>スルキハ必  
ス國家ノ大患ヲ作ストナリ故ニ其高王ハ宮  
室ヲ卑クシテカラ溝洫ニ尽セリ川除ト用水  
ノ普請ニ財用ノ費ヲ惜ムハ衣食住ノ源ヲ知ラ  
サル者ニシテ實ニ國家ノ負<sup>レ</sup>冤<sup>テ</sup>招クナリ

國ニ入テ其隄防溝洫ノ普請ヲ見ルハ則  
國君ト大臣ノ賢不肖ヲ察スルニ足ル心ヲ用  
サルヘケンヤ  
然リト虽<sup>レ</sup>凡<sup>レ</sup>地形ト水勢トヲ審ニ知ラスニテ無

益十ニ場ハ嚴重ナル普請ヲ構ヘ以テ財用  
費スモ亦愚ノ至リナリ此府ノ奉行タル者ハ隈  
防溝洫志ヲ熟讀セヨ

② 農業ヲ精クスルハ即チ食物衣屨居家日用  
料ヲ豊饒ニスル法ヲ修ルナリ隈防既ニ堅固ニ  
シテ用水モ亦ヨク灌流スル上ニ農政ヲ講明  
シ耕種ノ法ヲ精究シテ百姓ヲ教導シ作物  
ヲ十分ニ豊熟セシメ以テ國家ヲ富饒ニスベシ  
故ニ此業ヲ經濟力ニ要務トス必ス府

祭法曰厲山氏ニ  
有天下也其子曰  
農能殖百穀故  
祭以為稷ト然  
レハ草木ヲ種テ  
スルヲ農業ト云  
フハ農カ始メタル  
業ナルノ名ニテ  
彼國ノ上古ニ神  
農ト云フ聖人アリ  
此亦農ヲ尊シ林  
シタル神号ナルニ  
皇國ニ於テハ始メ  
保食神ノ遺骸ヨリ  
生タル草木蠶ホヲ  
養テ衣食住ノ諸物ヲ  
耕作シ王トタル天照  
大神ト須佐男神ナリ  
然レ稷トシ崇祭スキハ  
即此太神ナリ

ヲ立テ奉行ヲラキ以テ吏政ヲ俛強セシムヘシ  
乃チ農事府奉行ハ六奉行ノ力ニ座ナリ大  
四ハ小奉行救輩下役ノ諸士モ教ヲアリテ四  
役四ヲ立テ常ニ出役ニ百姓ヲ帥ヒテ農業  
ヲ專ラシ励ムヘシ

凡農事府ノ役人タル者ノ最モ心得ベキ  
一ハ百姓共ノ皆骨ヲ折テ草木ヲ作ルニハ  
其求テ作ルハ六部アル者ナリ六部ト云  
ハ或ハ根ヲ求テ作ル者アリ莖ヲ求テ作

ルアリ或ハ皮ヲ求ルマリ葉ヲ求ルアリ或ハ  
花ヲ求ル者アリ實ヲ求ル者アリ根ヲ求ラ  
作ル者ハ午葦葉菴胡蘿蔔茄蒨耳薯其  
他甚多茎ヲ求ル者ハ木炭ニ甚多皮ヲ求ル  
者ハ麻<sup>アラハシ</sup>亭麻商麻楮三人木肉桂黃柏ホナリ  
葉ヲ求ル者ハ藍葉烟草桑紫蘆葉物ホナリ  
花ヲ求ル者ハ紅花及ヒ諸名花ホナリ實ヲ求  
ル者ハ百穀百果其甚多此六部中ニテ  
先其根ヲ求テ作ル者ハ只其根ヲ十分ニ

肥大シテ上品ニ仕立ル法アリテ耕耨スルモ培  
養スルモ唯其根ヲ主張スルノ法ヲ行ハシ故  
ニ唯其根ノ化育ノ勢カヲ十分ニ逞クシテ  
絶世ノ上品ヲ生スルニ至ル是レ其耕耨培養  
ノ懇到ヲ只根一部ニ尽スカ故ナリ其他何  
ノ部ヲ求テ作ルニモ其理ハ此ニ同シ且又  
糞直ト云モ人ハ其性効ノ根ニ透ルアリ  
茎ニ透クアリ皮ニ至ルアリ葉ニ透ルアリ  
花ニ外ルアリ實ニ<sup>トミ</sup>化ルアリ故ニ作物培



養フルニハ種々微妙ナル秘訣アルナリ  
然レ其秘訣ヲ知ラスレテ根ヲ求テ作ル者  
其莖葉ヲ主張スル法ヲ行フカ如キハ唯  
其莖葉ノ意外ニ繁行レテ其根ハ瘠瘦ニ  
シテ論ヲ候スレテ知ヘシ然レハ農業ヲ勤ルニハ  
先ツ世六部ノ中ニ於テ其主トシテ求ル部  
者ハ必ス其本ノ部ノ肥太充實シテ上品ト成  
ノ法ヲ行フヘキナレバ古来農書ニ絶テ本  
ヲ論シタル者ナレ歎息スヘキノ至ナリ我々

世々農ヲ勤テ傳來ノ良法極テ多ク愚老モ亦  
多年此ヲ業トシ始テ此理アルヘキヲ察シ其  
後仔細ニ心ヲ尽シ六部ヲ別々ニ耕種シテ精ク  
此ヲ試ルニ十有余年遂ニ其法ヲ精究スルヲ  
得テ筆記十卷ヲ著シ農業六部耕種法ト  
名ク大夫若違暇アラム一覽セヨ

百穀百果蔬菜桑麻染料油料桑楮茶烟  
草茶料漆竹枝木薪炭ハ日用甚大ナリ  
宜ク此物ヲ多ク出シテ境内ニ用余ラシメ此

ヲ他国ニ輸送シ交易ノ貨物トスヘシ殊ニ穀  
麥ハ性命ノ係ル所ナリ其耕種法ヲ精クシ  
テ豊饒ナラシメヨ

凡油料紙菓種ハ多ク出テ日本ニ余  
レハ外国交易ノ耕トモナスヘシ蠟モ亦然リ  
宜ク公儀ニ願テ長崎ニ輸ルヘシ抑  
蠟ハ西国ニテハ大抵黄櫃ノ實ヨリ搾リ  
搥リ然レモ漆水ノ實ヨリ搾リタルハ其性殊ニ  
宜シ故ニ橋本ヲ植ルモ亦一箇ハ盛産ニ

此事ハ我家先祖ヨリ仕馴タル業ニテ絶テ  
損失ノナキ者ナリ漆木ハ我家ノ法ノ如ク  
種子ヲ蒔キ苗ヲ仕立テ三年ヲ經テ野  
カ山ニ移植シ四五年モ培養スル所ハ実  
ヲ結ブリ僅一三外ナレバ十年ニ及ラザル大  
約一斗余ノ實ヲ生シ十五年ニハ二斗ニ  
至リ二十年ニハ四五斗ニ至リ三十年ニハ  
七八斗ニ及ラ然レハ一里四方ノ地四百六  
十六万五千六百坪ニ漆木百万本植

付テ一本ニ毎年五斗ツク実ヲ生スル下積ルル片  
ハ五十万石ノ実ナリ此ヲ會津ノ四法ノ如ク  
百姓共ニ任セテ漆実一斗ヨリ蠟二十反ツ上  
納セシムル片ハ其蠟百万ノ目ナリ此ヲ金  
一両ニ五ノ目ツクニ賣ルル代金二十万兩ナ  
リ又漆木ヲ作ルル養生指<sup>ガキ</sup>ノ云テアリテ  
零漆<sup>タリウレ</sup>ヲ<sup>カキト</sup>採サレハ或ハ枯ルニ至ル此百万  
本ノ木ヲ養生指スル片ハ零漆ノ液<sup>レ</sup>モ亦  
二万ノ目ニ下ラス此ヲ金一両ニ一ノ五百

反ツクニ賣ルル代金二万兩ナリ荒タル野  
山モ法ヲ行テ經營スルハ五七年ノ間ニ八年  
ノ救百兩ノ金納リ十年以後ハ救千金  
ニ及ヒ二十年以後ハ救万金ニ至ル殊ニ漆木  
ハ年ヲ經ルニ從ヒ實ノ多ク生ルモノ故ニ  
後ニハ廣大ノ物産ナルヘシ實ニ永世不朽  
ノ盛業ト称スベキ者ナリ凡漆園ヲ取立ルハ  
土地ヲ撰ヒ苗代ヲ構ヘ種子ヲ漬シテ此  
ヲ蒔キ苗ヲ仕立テ長スルニ及テ女木男

木ヲ弁別シ男木ヲハ悉ク拔棄テ女  
木ハカリテ植付ルホヨク植地ヲ調移  
植テ此ヲ培養シ早ク成長セシメ實ヲ多  
ク結シムルニ至ルテ甚ク傳来ノ秘事多  
シ九漆ヲ作り蠟ヲ榨ルニ秋田津輕  
南部仙臺會津ホ各制度ニ異同アリ  
然レテ會津ノ法最モ精密ナリ初會津  
候ノ始祖正之君ノ封ヲ會津ニ受レシ時  
會津ハ山谷ノ間ニシテ偏土ナルヲ以テ四ノ

貧ナルヘキヲ察シ有名ノ學者ヲ集テ四  
家ノ利益ヲ興サシテ謀ラシム我曾祖  
父元庵翁モ亦聘セラレテ會津ニ至リ種  
四益ノ一ヲ議セリ漆本ヲ植ルノ業ハ其  
中ノ一事ナリ故ニ會津ノ漆園ノ制度即  
我曾祖父翁ノ議ナルニ成レリ先年ニ大  
夫ニ傳授シタル漆園法律ノ一卷ハ正保ニ  
丙戌年ニ我元庵翁ノ君松城ニテ著ハ  
サレタルニナリ是漆園開苑ノ秘訣ナリ

大夫其珍重セヨ凡四家ヲ領スル者ハ心  
ヲ尽シテ土地ヲ經營セハ四家ヲ大ニ富實ス  
ヘキノ盛産尚種クアリ漆ヲ植ルノミニア  
ラス

凡百姓ヲ富シテ四家ヲ隆盛ニスルノ要務ハ必  
シモ其年貢ヲ減シ取箇ヲ薄クスルノ故ニア  
ラス其肝要ナル大事ハ只是百姓ヲ餉ヒテ農  
事ヲ励ノ懇誠ナルニアリ

上田一段ヲ十五ノ盛トシテ米一石五斗生ス

ルテ例トシ其中三斗ヲ種子農具料ト扶持  
米トシテ百姓ニ賜リ残り一石ニ斗ヲニツニ分テ  
六斗ヲ年貢ニ收メ六斗ヲ作得トスルヲ四公六  
民ノ取箇ト名テ中古以來ノ定法トス然ルヲ  
三斗上納トシテ一石ニ斗ヲ百姓ニ賜ル中ハ  
二公八民ノ法ニテ格外ナル仁政ト称スヘシ  
仮令ハ茲ニ田地五段持タル百姓アラハ此ニ  
二公八民ノ法ノ如ク一段ニテ三斗ト是迄  
格外ニ多ク賜フハ五段ニテ一石五斗ノ

余慶ナリ仁ナルハ仁ナレバ仁ナレバナクテ大ナレ  
利潤ニハ非ルナリ今ニ其語ヲ詳ニ論ス  
シ愚老先年上総國大豆谷<sup>トミザク</sup>在<sup>ニ</sup>ル<sup>ニ</sup>中田  
ニ段持テリ此ヲ村内ノ百姓ニ借<sup>ニ</sup>テ作<sup>ラ</sup>シムル  
ニ何レノ年モ米ヲ得<sup>ル</sup>ト四石許ニ過<sup>ル</sup>トナレ  
同テ愚老自<sup>ラ</sup>其田ヲ作り精細ニ予カユ夫  
ノ六部耕種法ヲ行<sup>ヒ</sup>至<sup>テ</sup>誠懇到<sup>リ</sup>テ尽<sup>シ</sup>テ  
培養セシカハ其初年ニ米七石一斗ヲ得<sup>タリ</sup>  
二年目ニハ七石八斗ヲ採<sup>リ</sup>三年目ニハ八石五

外ヲ得<sup>タリ</sup>是ヨリ以後ハ何レノ年モ八石ヲ  
減<sup>ス</sup>ルトナレ此ニ段ノ割合ニテ勘定ス  
ル<sup>ル</sup>片ハ一段ノ田ヨリ四石ノ株米ナルヲ以<sup>テ</sup>  
五段持<sup>テ</sup>ハ二十石ノ株米ナリ十五ノ盛  
ノ七石五斗ヲ意<sup>々</sup>年貢ニ上納<sup>ス</sup>ル<sup>ル</sup>虽<sup>モ</sup>  
百姓ノ得<sup>ル</sup>分米十二石五斗ニテ二公八民  
ノ得<sup>ル</sup>分米別ニ六石五斗ノ余慶アリ  
ノ農業ニ懇誠<sup>ヲ</sup>尽<sup>ス</sup>ト疎放<sup>ニ</sup>ス<sup>ル</sup>トハ意  
外ノ損益<sup>アル</sup>者ナリ

百姓和ホセシメ其骨  
新ノ苦勞ヲ忘レシ  
ルノ法ハ事カ経済  
要界ニ説ク如ク  
時ニ国君自ラ臨  
テ社稷ノ祭ヲ

故ニ四家ニ主タル者ハ農事ニ明ニシテ懇到  
人ヲ撰テ農業ノ師トナシ其他諸士百姓  
中ヨリモ敦厚和平ニシテ人ヲ勸ル性アル者ヲ  
挙テ役人トナシヨク百姓ヲ教テ耕種ノ法  
ヲ精密ニシ或ハ補助ニシ或ハ糞草ヲ與ヘ或惠  
ヲ施シ和樂セシメテ其勞ヲ忘レシテ至誠ヲ尽  
シ此ヲ憐ミ導キテ各其業ヲ勵シタルハ百穀  
百果万草万木皆大ニ豊熟ニテ百姓ホ食  
物衣裘富貴腹鼓ヲキテ年貢ハ是迄ノ一

崇敬ニ百姓ニ酒  
ヲ飲シテ老人ヲ  
養ヒヨリ善ナルハ  
ナモ国君モシ  
自出ルテ能ハ  
サルハ物大夫  
ニテモ宜シ且又  
偏鄙ノ鄉村モ  
必ス備社料ノ  
田地ヲ置テ四時  
神事毎ニ役人ヲ  
遣シ養老ノ礼  
ヲ行ヒ其跡ニテ  
百姓ニ酒ヲ飲マ  
シテ狂ノ如クテ  
シムニ村ノ産  
都那ノ祭ニ大ニ  
百姓ヲ和樂セシ  
ムハ即長其  
御人ノ魂魄ヲ其  
産都那ノ社ニ得  
着ナリ社ヲ百姓  
ヲ治ルノ極秘トス

倍增ニモ二倍增ニモシテ十五ノ盛ヲ四十ノ盛ニ収  
納スルトモ万民和樂仁政ノ慈徳ヲ欣戴スニ  
孟子ノ民事ハ緩カスヘカラスト云ハレタルハ即是  
ナリ唯其百姓ト云者ハ甚々愚昧ニシテ懶懦ナル  
者ニテ兔ニ角ニ骨折スルヲ憚リ貧困ノ身ニ  
迫ルヲモ顧ハル者多ク且又耕作ノ業ホハ歳  
程益アルヲ教ルト虽旧来己カ習慣タル  
僻ニ凝固リ容易ク從ハル者ニテ此ヲ改ル  
一大難事ナリ故ニ農師ヲ始メ百姓ヲ取扱フ

役人ハ温厚ニ且寛量アリテ性急ナラサル人  
物ヲ用ヒ或ハ能ク教ニ從テ業ヲ勤ル者ニハ  
思ノ外ナル厚キ俸美ヲ賜リ或ハ執強ニシテ  
教ニ從サル者ト偷懶ニ業ヲ怠ル者ヲハ時  
鞭撻ノ刑ニ行ヒテ此ヲ恥シメ以テ農政ヲ嚴  
明ニスベシ殊ニ春ノ祈年祭箕ノ禱祭アヲハ  
別シテ丹誠ヲ尽シ潔淨ヲ究テ祭ルヘシ宜  
ク四君モ親ラ此ニ臨ムヘシ昔シ公劉カ戒  
狄ヲ愛シテ豳國ヲ開キタル始末ヲ摸範ト  
公劉ノ行状ヲ詳知シテ欲セシ詩  
八篇ヲ熟読スヘシ  
即箕公劉七月  
大田甫田載セス  
良耜畝平行  
其耒是十リ

スル下肝要ナリ

凡農民ニハ農ヨリ外ノ業ヲナスコトヲ  
嚴シク禁スベシ若シ然セサルギハ必ス農  
政ヲ墮落スル者ナリ

③山沢ヲ開テ山物ヲ出スモ亦一箇ノ産業ナリ  
必ス府ヲ立テ奉行ヲ置キ其政事ヲ総司シ  
小奉行及ヒ下役ノ諸士モ教多アリテ諸  
一役ニテ立テ出役シ山民ヲ至使シテ種々山  
物ヲ出シ以テ國家ノ日用ヲ豊饒ニシ其用ヒ

山神ノ祭祀ニ  
君自臨テ事ヲ  
行フヘシモ  
自出ルコトナク  
奉行ハ必ス自臨  
スヘシ其礼悉ク  
農神ノ祭ノ如ク  
スヘシ



余ルヲハ他國ニ輸シテ交易ノ貨物トナス  
ヘシ所謂山物トハ美玉寶石金銀銅鉛  
錫汞鉄其他硫黃燭消綠砒胆砒明砒  
火石砥石滑石及ヒ不膏石脂石灰<sup>土</sup>  
土板石卷石庭石諸材木薪炭茶物<sup>ホヲ</sup>饌  
タル名ナリ此諸物ハ何レモ十クテハ叶ハザル<sup>ハ</sup>ニシテ  
日用モ亦極テ廣大ナリ故ニ農業ヲ精究スルハ  
此業ヲ精究セシハアルカラス是以テ此業ヲ經濟未  
三人要務トシ此府ノ奉行ヲ六奉行ノ方三座トス凡

山民産業ノ事ハ曾テ大夫ニ傳授シタル山相秘  
録ニ詳タルヲ以テ就テ考合サレヨ

山相トハ諸金ヲ含ム山ヲ外ヨリ相テ  
其苗ヲ揀覈<sup>キ</sup>或ハ金或ハ銀ノ有無多  
少ヲ知り其金鐘銀礁ノアル處ニ達スル  
ノ淺深<sup>ト</sup>此ヲ穿採ルノ難易ヲモ推察シ  
テ未タ開採ニ取掛ラサル以前ニ豫メ其  
山ヲ堀ルノ損益<sup>ニ</sup>テ早ク業勤シテ能  
違フ<sup>ト</sup>ナキヲ云此山相學ノ明ナラザ

此因テ金銀ニ無キ山ニ深キ坑ヲ穿  
ル救多ク財用ヲ費シ銀土ニ夥シキ損  
毛ヲ掛ケ産ヲ破リ家ヲ衰ヘシメテ已カ  
口腹ヲ糊<sup>ヤ</sup>ク<sup>チ</sup>奸曲人古来甚々多ク故ニ  
人ヲ欺キ已カ利ヲ囿ル者ヲ總テ山士ト唱  
フルニ至レリ我祖父不昧軒翁コレヲ憤リ  
弱年ヨリ遍ク諸國ノ坑場ニ推シ巖ヲ穿  
テ石ヲ碎キテ諸金ノ有無ヲ探究シ刻  
苦陶煉スルニ四十余年遂ニ山相ノ真

面目ヲ見ルヲ得ルニ至レリ乃チ諸金ヲ  
會藏スル山ニ直立散漫左擔右擔前  
藏後藏上渴下渴ハノ相懸アリテ昼烟  
夜華ノ徴ヲ現シ其山ニ會ミアル諸金ノ有無  
多少ヲ示ス此亦産靈大神ノ人妻ヲ愛育  
スルカ為ニ万物ヲ發生スルノ妙機ニシテ信  
其理ノ不可思議ナル者ナリ且又山ニ多金ヲ  
會藏スルト雖長其地ノ出泉盈虚水脉  
昂低巖石硬軟隔白厚薄ハニ因テ

其鐘又穿採ルニ難易アリ或ハ其  
礪條ニモ亦近短遠長前瘠後瘠草  
條多岐淺豊深豊ホ自然天稟ハ身  
質有ニ一様ナルヲ能ハサルヲ以テ是ハ  
看法一テヲ審ニ年明ニ以テ坑場家子  
歳未迄ヲ蘊奥ヲ開示レテ著ハシタルハ  
即チ山相秘録ナリ其後我父玄明窩  
翁モ亦其志ヲ継テ遍ク諸國ノ坑場カ子ヤハ  
ヲ游歴シ山相ノ学ヲ講明ニテ弘ク礪

夫ヲ教育セリ今ニ至テ出羽奥品野州濃  
州飛彈石見豊後伊豫ホノ國ニハ山相  
ノ事ヲ心得タル昔アルハ大抵我父祖二翁  
ノ余光ナリ愚老モ亦先人ノ志ヲ継テ  
諸國ノ坑場ニ游ヒ其事ヲ精究スルノ  
次ニ祖父翁ノ秘録ニ父翁ノ山相図翼  
ヲ合シ且又此ニ附スルニ凡山ヨリ出ル美  
玉寶石ヲ始メ諸石墨丹青菱硫黄卷  
石石炭石灰ホヲ出シ諸材木薪炭ニ

テテ多ク出レテ山民ノ富實スヘキ産業  
ノ仕方ヲ以テ四卷ノ書トナシ山民産業録ト  
名テ以テ家塾ニ藏ス大夫モ亦閑暇アラハ  
此ヲ一覽セヨ抑貴藩ハ封域廣大ナレハ  
平地ハ少クシテ山谷極テ多ク然レハ此  
書ニ説タル如ク府ヲ立テ奉行ヲ置キ  
山民ヲ撫御シテ山物ヲ多ク出サハ此亦  
境内ヲ富實スルノ良策ナルベシ

④河海夫理トハ大小ノ船ヲ造リテ貨物ノ運送ヲ

海河水神ヲ  
祭ルモ農事  
府ノ如クスニ  
程思ニスル  
勿レ實ニ四  
家ノ大事ニ

便利ニシ又四ノ漁獵ノ業ヲ興シ種々ノ魚鱉  
蟹貝ホヲ投テ食料ニ給レ或ハ鮮魚或ハ醃魚  
鮑魚白鮫鮓鱧魚鮓ホニ製シ魚油蠶首ノ用  
モ亦其救廣大ナリ且又海濱及ヒ内洋ノ沙漠  
ノ地ニハ塩<sup>シホヤキ</sup>埋ヲ立テ塩ヲ醋シムヘシ夫レ  
塩ハ一日モ無ケテハ叶ハナルイ穀麥ニ異ナルイナ  
ヲ魚モ亦此ニ次ク故ニ必ス府ヲ立テ奉行ヲ  
置キ其故ヲ俛強セシハアルヘカラス且小奉  
行下役ノ諸士モ救多有テ水民ヲ帥ヒテ

其業ヲ励之此業ハ經濟力四ノ要務ニ  
シテ奉行ハ亦四坐ナリ  
海民ハ船戸漁士海下ハ皆一箇ノ産業  
ナリ其他海濱ノ民ハ紫菜石花菜麻  
角菜海蘊羊栖菜海帶裙帶菜昆  
布海藻ホヲ採テ國家ノ用ニ給スルモ  
亦自ラ以テ衣食スルニ足レリ  
抑河海府ノ故事ハ四内ノ船戸ノ部御シテ貨  
物ヲ運送セシムルモ一箇ノ要務ニテ殊ニ軍船ヲ

出シ水戦ヲ操練スルハ此府ノ奉行モ水土  
府ノ奉行ト同ク配下ノ民ヲ師ヒ出テ軍役  
ヲ勤ルヲ定例トシテ兼テ平常ニモ其心得ニ  
テ手當シ置テ肝要ナリ  
小奉行及ヒ下役諸士モ其心得ニテ豫  
其備テ調へ不慮ノ警言メアリトモ事  
ハ閑サルヲ務トスヘシ  
其他塩ヲ醋ノ業ハ甚タ有用ノ一ニテ其用モ亦  
廣大ナル者ナク宜ク多分ニ出シ四内ニ用ヒ余

ヲ他國ニ輸スヘシ魚漁ノ利ハ塩ヨリ尚廣  
大ナリ

九十九里ノ海鯧土州ノ鉛鍾魚肥前ノ

海筒松前ノ鮭及ヒ杏魚鯧鱈ホ皆

其名ノ天下ニ高キナリ

然レモ漁士ノ性ハ甚々放埒ナル者ニテ大漁ノ

時ハ飲博ニ錢ヲ費スナリ土砂ノ如シ故ニ久霖

悪風ホニテ不獵ノ長ク継クキハ皆飢餓ニ

迫リ婦女ノ姪メル者ヲ往クニ墮胎ス故ニ

漁村ハ人別ノ減少スルナリ多シ我父玄明富  
翁其悪俗ヲ悲ミ此ヲ救フヘキ道ヲ工夫シ漁  
民維持法ト云書ヲ著ハセリ此書ハ漁士ノ貧  
ク救フノミナラス種々水産ヲ出シテ海濱ヲ富  
スヘキ法ヲ記セリ此府ノ役人タル者ハ宜ク一  
覽スヘシ大夫ハ曾テ讀シテト覺タリ  
百工ヲ興ストハ種々ノ工匠ヲ救多招集テ  
有用ノ諸器ノ製作ニ以テ國家ノ諸用  
ヲ弁スルヲ云凡國内ニ工匠無シテ諸

工神ヲ祭ルモ  
亦上ノ諸府  
ニ同シ

⑤

器物ヲ他國ヨリ買入レテ用ルキハ他國ニ  
 利益多キヲ以テ境内衰微ノ基ナリ故  
 ニ必ス府ヲ立テ奉行ヲ置キ且小奉行下  
 役人ホモ救十輩有テ工匠ヲ集メ種々ノ  
 器物ヲ夥シク作ラシメ國內ノ用ニ余ルヲ他  
 國ニ輸送出シテ交易ノ品物トナシ以テ自  
 國ノ富ヲ增加フヘシ是以テ此業ヲ經濟  
 才五人要務トシテ奉行ハ亦五座トス凡  
 工匠ノ多キ中ニ於テモ大匠ダイク 仙夫センフ 鋸工コボキ 木匠サモシ

サクシ 泥工ヤチ 菅工フケ 桶匠カダ 鋸冶サモシ 鋳工ヒキ 鑄工ヒキ 漆工ヌシ 竹匠タケ 織工オリ  
ソメ 漆工ヌシ 縫工ヌイ 紙漉カハ 裱工ホリ 墨生スミ 筆行フテ 画工エ 紅染ベニ 匠シ  
ヌイ 漆工ヌシ 繡工ヌイ 皮匠カハ 刻工ホリ 彫石ハシ 瓦匠カハ 陶工セト 瓦匠カハ  
 玉工トギ 硝子匠サヤ 磋工コシ 事作匠スセ 簾匠カシ 樂工カク 船匠フネ  
 車工クルマ 武器匠ブキ 弓工ユミ 矢人ヤ 鎗工サシ 銃匠サシ 甲冑工カウ 馬  
 具匠ウツ 其他金銀銅鉄錫鉛骨角羽毛甲壳カウ 木  
 匠シ 皆是レ關ヘカラナルタケ 匠シ

古ハ器物ヲ製スルニ必ス法度アリテ淫靡  
 華靡奇巧奢侈ナル品物ヲハ絶テ作ルナ

ラ許ス是レ法制ナリ故ニ人君ノ身分ニ  
テモ奢侈華靡ナル器物ノ製ヲ命スルハ  
匠人必ス法制ヲ守テ敗テ作テカリシ者之  
尚書云工執藝事而諫ト即ナ是ナリ  
何トナレハ工匠共ニ法制ヲ嚴重ニセキハ  
必ス華靡奇巧ナル器物ヲ作ク或美  
廉淫靡ナル段匠<sup>タモ</sup>ホヲ織出ス者ナリ  
貴人ノ論スルニモ及ハス下ノ者ト虽モ  
此ヲ見ルハ必ス奢侈ノ心ヲ発ス其

心一夕に発スルハ遂ニ奢侈ヲ行フニ至ル  
奢侈ヲ縱ニスルニ至リ於是乎財用皆  
分ニ過テ費ルテ以テ上ハ天子ヨリ下モ乞  
人ニ至ルニテ皆困窮シテ暮ス可<sup>レ</sup>能ハサ  
ニ至リ終ニ天下ノ禍乱ノ起ル基ト為  
者ナリ尚書云四海困窮天祿永終トハ  
即チ是ナリ故ニ工匠ノ法ヲ守ラステ美  
麗巧妙ナル服玩ヲ作り去スハ即チ奢  
侈ノ本ナリ奢侈ハ即困窮ノ本ナリ困



究ハ即 禍乱ノ本ナリ可<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>畏哉可不  
畏哉今ハ工匠ノ禁ナキヲ以テ萃<sub>レ</sub>靡<sub>レ</sub>其  
器物大ニ世ニ用<sub>レ</sub>ヒラレ然<sub>レ</sub>ハ此節百工ヲ  
興スト虽凡<sub>レ</sub>簞<sub>レ</sub>朴ナル器物ヲ製スル時ハ用  
者少ク國家ヲ利潤スル<sub>レ</sub>テ得<sub>レ</sub>一カラス熟  
察ス之キ<sub>レ</sub>而ナリ唯是時世ノ好ニ<sub>レ</sub>応スルノ  
珍奇萃<sub>レ</sub>靡<sub>レ</sub>ナル器物ヲ作<sub>レ</sub>悉ク此ヲ他國  
ニ輸<sub>レ</sub>リテ交易ノ品トシ自國ノ中ニテハ嚴  
ク用<sub>レ</sub>ル<sub>レ</sub>ヲ禁<sub>ス</sub>一キノ<sub>レ</sub>此論權謀ノ術

救ニ近ク王道ニ遠キカ如クナル<sub>レ</sub>凡<sub>レ</sub>今ノ世ニ  
當<sub>レ</sub>テ人心ノ奢靡ヲ競<sub>フ</sub>一<sub>レ</sub>溜<sub>ミ</sub>トシテ  
天下皆是ナリ貴藩一國道揆ヲ修<sub>テ</sub>法  
制ヲ守<sub>ル</sub>ト虽凡<sub>レ</sub>一世ノ淫靡ヲ匡<sub>正</sub>ス<sub>ル</sub>ヲ  
得<sub>レ</sub>一カラサルナリ然<sub>レ</sub>凡<sub>レ</sub>天下ノ人皆醉<sub>ヲ</sub>羨<sub>テ</sub>  
自國ノ民ニ其糲ヲ食<sub>ハ</sub>シム<sub>ヘ</sub>キノ理ナシ昔  
復<sub>レ</sub>桀ノ天下ニ<sub>レ</sub>王<sub>タ</sub>リ<sub>シ</sub>時ニ上下皆奢<sub>レ</sub>侈<sub>レ</sub>淫  
靡大ニ流行<sub>シ</sub>テ一世ノ人狂<sub>ノ</sub>如ク四海悉ク  
困<sub>窮</sub>ニ<sub>レ</sub>迫<sub>レ</sub>リ唯<sub>レ</sub>商<sub>立</sub>ノ君湯ナル者一人

僅日本路ニテ十里四方許 領主ナレバ  
素節儉ヲ以テ其國ヲ治ノ上下共ニ安靖  
ニシテ困窮ナル者アルナシ且又伊予  
ト云ヘル神佐ノ臣有テ通移開闢ノ  
法ヲ行ヒ大利ヲ收メ故ニ天下ノ富ヲ  
悉ク此商立ニ溘ノ遂ニ大業ヲ興ス  
ニ至レリ此ノ商湯ト伊予ハ共ニ聖人ニ  
テ古来道学者ノ祖述スル所ナリ然  
レハ愚老カ説タル策ヲ王道ニ遠シト

思フコト勿レ

高賈神ヲ祭ルモ亦上ノ諸府ニ同シ然レトモ侈奢ナルヲハ巖ク禁スヘシ神輿ヲ擔テ練行ニ白衣ノ外ハ美色ノ衣ヲ服スルヲ固ク禁シ裸ニテ祭ルヲ法トス上総國一ノ宮ノ神事ノ如クスヘシ

⑥ 高賈ヲ轄スルトハ商民ハ自國ニナキ而シテ物ヲ他國ヨリ招寄セ又自國ニ多ク生シテ用セ余ル物ヲハ他國ニ輸シテ自國ニ少キ物ト交易シ能自國他國ヲ要用シ并ニ双方兩便ノ一ニ望テ達シ万物ヲ融通シ人ノ世ノ必需ニ給ス物ハ天地ハ万物ヲ生テ育ミテ人類ヲ養フト強ク東西形状ヲ異ニシ南北気味ヲ同クセス暖地ニ繁栄スル者ハ寒國ニ生セス寒地ニ豊熟スル者ハ暖國

少シ故ニ南北相交へ東西相易テ然ノ後ニ  
世界ノ用ヲ全スルヲ得ヘシ然レハ交易ハ人  
世ノ要道ニシテ即チ天地ヲ神意ナルヲ知ル  
故ニ一日モナカルヘカラサル業ナリ是以テ必ス府  
ヲ立テ奉行ヲ置キ以テ万貨ヲ融通ス即是  
經濟才六ノ要務ニテ奉行ヲ才六坐トス  
小奉行下役人モ救多ナレバ其率全タカラス  
古来貨物交易ノ業ハ四君唯其大體ノミヲ  
轄テ商賈ニ相場ノ昂低ニテ任セ置タルカ

交易ヲ四君ノ  
持ニセスシテ  
商人ニ万物賣  
買ノ柄ヲ任セ  
置氏ハ後ニミハ  
四海四究シテ  
天祿永終ノ  
大患トナル  
アラニ可不畏哉

故ニ商賈ホ奸智ヲ廻ラシ私意ヲ縱レテ  
物價ヲ自由自在ニ高下レ何レモ莫大ノ利  
潤ヲ得テ救百万兩ノ黄金家ト爲リ其富  
諸侯ニ抗スル者往々多シ其以下百万兩五  
十万兩二十万兩ノ豪富ナル商賈ノ多キ一  
幾千万家ト云フヲ知ラス四持ノ身分ト  
虽氏富小悉ク賣人ノ手ニ落テ取継トモ難  
ク商賈ヲ尊敬シテ給テ祈フニ至レリ是以  
テ察スベシ賣買ノ交易ノ權柄ヲ商賈ニ任カセ

置公四家ノ大患ナリトテ蘇...

萬貨賣買ノ権柄ヲ商民共ニ任セル  
ハ四家ノ大患ヲ爲スノ中ニ於テ米  
穀ノ賣買ヲ賣人ニ任セルハ其禍最セ  
甚シ其顯然タル証拠ハ天明丙午ノ年  
凶荒ナリシカトモ米ハ天下ノ人ヲ養フ  
ニ余レリ然ルニ商人ホテ大金ノ有  
ル勢ニ乘シ商モ廣大ノ利潤ヲ得レ  
リテ欲シ頻リニ米ヲ買込シテ因テ江

戸ノ米價暴時ノ間ニ意外ニ高レリ江  
ハ日本ノ大本ナルヲ以テ江戸ノ米價高クナ  
ル時ハ日本終國ノ米價總音ノ声ニ志スルカ  
如ク皆一時ニ高ク成テ錢百文ニ三合ノ米ヲ  
賣者ノ無キニ至テ人民大ニ騷動ニ及錢死  
シタル者其救ヲ知ラス殊ニ其凶ニ因リテ  
ハ實ニ作物ノ少シモ出来ナル國モ有テ百  
姓ノ飢ニ困白ク別ニテ多アリシトソ  
公儀ニ於テハ御慈悲極ニ厚ク歸土ノ

百姓ニテモ悉ク御救アリハサレタカ思  
召一ナレバ大金ヲ持タル商人共賣買  
ノ権柄ヲ手ニ握リ自由自在ニ取計  
フ一ナレバ御慈悲モ行届サル一ナリ  
且商人共ニ賣買ヲ任シテ一旦昂ク  
米相場ハ假令ニ下直ニ賣買セヨト嚴令  
ヲ下スト虽死仲ニ急ニ安クナル者ニ誰  
ヲ以テ其間ニハ甚ク困究スル者ノアリ  
一ハ論スルニ及ハス古来高買ヲ愛

スルノ甚ク隆ナルヲ以テ救万ノ罪ナキ百  
姓ヲ餓死セシムルニ至ル悲ムヘキノ事ナリケル  
申スモ畏アル一ナレバ愚老熟ニ按スルニ今夫  
公儀ノ御慈悲ノ厚キ一若シ米穀高直ニ  
シテ下民ノ困究スル氏ハ御救米ノ賜ル一救  
度ニ及フ然レバ米相場ハ下ル一無キテ以テ  
御救ニ與ラレルノ貧民ハ困究スル一最甚ニ  
然ハ御救米ヲ賜ルモ大ナル御損毛ナレトモ  
米價ヲ動かステ足ラズ故ニ御救米ヲ賜ル

三十万兩ノ損金ハ  
大ナルカ如クナレハ  
下ニ説タル法ヲ用  
ルハ須臾ノ間  
飯ルナリ

ヨリハ金一兩ニ米一石ツノ相場ニテ毎  
日一石石米ノ御拵米ヲ成ナレテ二月ハ  
カリノ間モ引繩キテ成セシナハ江戸ハ日本  
終國ノ本ナレバ日本國中ノ米直澁皆悉  
ク下落スヘシ六十万石ノ米ヲ石一兩ニ御  
拵ナレバ御損金三十万兩ニ過ルナレ無シ  
然スレバ公侯ノ御身上ニテハ借ハカリノ  
ナレバ信ニ時雨ノ下レルカ如キ大ナル  
御仁故ニテ天下ノ百姓養生ニタル思テ

ナレテ皆此慈徳ヲ欣ヒ戴クヘシ彼人  
ヲ調テ飯米ヲ賜ル様ノ小刀細工ノ御  
慈悲トハ年ヲ同クシテ論スヘケシ乎且又  
右御損金ノ速ニ飯ルノミナラス以後如何  
ナル凶年アリトモ御上ニ少シモ御損金ナ  
天下ノ貧民ヲ悉ク救フヘキ良法アリ其  
法ハ六ヶ敷トニ非ス只是レ古来商人トモ  
御任セ置キ成ナレタル万物賣買ノ権柄ヲ  
悉ク御取上ニ致シ新規ニ交易ノ府ヲ立

于奉行及ヒ救多人ヲ置キ日本國中  
ノ產物ノ湊會スル所ニハ彼等ヲ立テ役人  
申出役ニ是迄ノ間屋株ヲ持人商人共  
天ハ交易役等ノ下役ニ使ヒ天下ノ產物ヲ  
悉ク公儀ノ御持ニ御買入アリハサレ河  
屋株ノ商人共ヲ下役ニ使ヒ或ハ買入ニ  
骨析スリ者ト賣方ニ骨析スル者ニハ  
二朱ノ四朱ノ口錢ヲ賜リ是迄ノ様ニ  
賣買致サセ品物ノ仕入ニ悉ク

御金ヲ以テ致ス<sub>ト</sub>ナレ御拂物ノ代  
金ハ間屋共ヨリ取立テ茂寄<sub>モヨリ</sub>ノ御役等  
ニ上納スル法ニ相極メテ天下ノ品物ハ  
皆公儀ノ御持ニスル上ハ何レノ國何レノ  
村ノ御役等ニハ米何万石麥何万石或  
ハ綿何千箇紙何十万箇アルト云テ  
帳面ニ明白ナルヲ以テ万一凶年有テ何  
ノ國ハ米穀不足ナリト云ハ即何レノ  
國何村ノ御役等ノ米ヲ早船ニテ急ニ相

廻スベキ等御上ノ思召次第何時ニテ  
モ自由自在ナリ且又五物ノ御拂ヒ直  
段ヲ、御買入ヨリ二十分一増トシ惣金  
高ノ二十分一ヲ割金ニシテ此ヲ積立ル  
ヲ例トスヘシ然レハ江戸町中下リ問屋十  
組ニテ賣捌ノ品物ハカリモ年々ノ金高五  
百万兩ニ下ラズ其外地廻リ奥筋ホヨリ  
出ル米穀及ヒ諸産物モ亦夥シキナリ  
其他京大坂堺伏見大津駿府甲府

長崎ホニテ品物賣買ノ金高モ亦廣  
大ナルナレハ二十分一ヲ割タル積金毎  
年百万兩ニ下ルノ無カルヘシ此ノ金ノ中ニテ  
四ノ三御倉ヲ立テ米豆麥小豆糶ホヲ  
漸ク御貯ヘナサルニ於テハ饑饉ノ患  
ルナシ且其餘ル四ノ一金テ以テ多年豪  
家ニ兼從セラレタル田畠ヲ漸クニ請反シ  
テ此ヲ水吞百姓ニ賜リ又ハ野ノ末山ノ  
奥ニテモ物産ヲ出ス村々ニ魚利足ニテ借



万物ノ價ヲ下直ニ  
シテ四海ノ困窮ヲ  
救フヘキ良策ハ  
此法ヨリ外ニ絶テ  
アルコトナシ

遣シテ其仕入ヲ十分ニオセテ米穀モ物  
産モ次第ニ多ク發生シテ人民大ニ蕃息  
シ土地モ漸ク開墾シテ万物ノ生スルコト三  
倍ニモ五倍ニモ増加ハリ万民富饒ニシテ  
天下泰平天地ト共ニ疆リナカルヘシ

故ニ商賈ハ嚴ク其勢ヲ挫スルハアルヘカラス  
宜ク交易ノ権柄ヲ悉ク取上テ國君ノ持トナ  
シ間屋ヲハ皆此府ノ下輩役人トシテ使フヘシ  
且商人ヲハ市場ヲ立テ住居セシメ田間ニ居

一ハ固ク禁スベシ

商スルハ農ヲ勤ルヨリ骨モ折スレテ錢廻  
ルノヨキ者ナルヲ以テ商人ヲ田舎ニ雜居セシ  
ムルハ農民マモスレバ此ヲ羨テ商人ニ  
變スルコトアリ是田畠ノ荒ル基ナリ且  
又商人モ余リ多ク出未ルニ於テハ共漬  
成テ在リテハ渡世スルニ難ク必ス他國  
ニ出行ク者ナリ是人別ク減少スル源ニ  
故ニ商人ノ救ヲ定テ謾リニ増加ルコト勿シ

此ホム一ハ此府ノ役人ノ肝要ノ勤ナリ  
市場ハ大抵三四万許ノ土地一處ツ置ヘシ  
站ヲ兼ルハ殊ニ宜キ者ナリ交易ノ業ヲ烟君ノ  
持ニスルハ先ツ市場ヲ始メ一ツノ津港ホニ万物  
買入ノ會ニテ構ヘ役人間屋共ヲ紳ヒ此ニ  
出勤シテ諸品物ヲ買入レ其直戻ヲ二十分  
増シテ商人共ニ却レ其利分ヲ烟家ノ積金  
ト定ムベシ

允商人賣買ノ利分ハ穀物及物紙油

茶等金高ノ品物ハ二十分ノ一ヲ取ラレノ  
果物蔬菜ホソ如キハ十分ノ一ノ利ヲ取ラレ  
鮮魚ホソ如キハ十分ノ二ヲ取ルモ許ス  
アリ若シ分外ノ高利ヲ貪ルヲハ搦取テ  
此ヲ鞭打テ其上ニ贖錢ヲ出サシムルニ等  
級アリ又酒醬油酢豉ホヲ造リ油蠟  
及同ホヲ榨ル業ハ皆悉ク烟君ノ持ト  
交易府ノ積金ハ年ヲ累ルニ從ヒ廣大ヲ為

ス者ナルヲ以テ水土府ノ奉行ト設シテ隈防  
溝洫ノ普請ニ力ヲ尽シ且新田新畑等  
ヲ開キ農事府ハ篤ク百姓ヲ補助ケテ農業  
精密ニ勵シテ河海府山沢府モ亦仕入ヲ厚クシ  
テ其業ヲ大ニスヘシ百工府モ亦然リ斯ノ如クス  
ル片ハ國ノ分限高漸ク廣大ニ成テ以前ノ五倍  
十倍モ至ルヘシ古來交易ノ一ヲハ賤業ト心得居  
ル人モ不レ然ニ非ス西洋諸國ニテハ皆國  
王ノ專業ナリ此ヲ商民ニ任置者ハ唯日本ト

漢土ノ故ニ凶年ニハ百姓ヲ餓死サセル如キ  
陳<sup>フテキハ</sup>漏<sup>テ又ケ</sup>ヲ致ス下アリ可<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>察哉交易ノ利國ト  
云者ハ極テ廣大ナル者ニテ心ヲ尽シテ此レヲ  
經營スルニ至テハ國土ノ年貢租稅ホノ十  
倍ノニ非ルナリ西洋ノ魯西亞諸國<sup>厄利亞</sup>  
ホノ國富兵強クシテ其勢ノ世界ニ雄ナル  
者ハ唯是交易ノ大利ヲ收ルカ故ノニ故  
万物賣買ノ柄ヲ高賣ニ委任ルハ國家  
困窮スルノ根本ナル一ヲ知ルヘシ大夫貴

藩ヲ富盛センコトヲ欲セハ三事ヲ審ミシテ六  
府ヲ立テ六民ヲシテ各其業ヲ俛僞シテ  
他産ヲ兼併セシムル不無ク上下一致シテ國  
事ヲ經營セハ國家ノ富實センコト絶テ疑  
フコト勿レ只其上ニテ警ムヘキハ奢侈ナリ如  
何ナル善政ヲ行フト虽凡奢侈放蕩ヲ戒  
ムカレハ何ノ甲斐モナキ者ナリ 經濟ノ  
簡ニシテ要ナル者ハ唯是ノコト

萬貨輻湊

大夫三事六府ノ説ヲ讀テ救日ノ後予ニ謂  
テ曰ク先主ノ示教ハ天理至當ノ高論ナリ然レモ  
土地ヲ經營シ物産ヲ開発スルカ如キハ多年ヲ経サレハ  
成功ナキノ業ニシテ眉急ノ艱難ヲ濟フコトヲ得  
ヘカラス僕カ清望ハ只速ニ財用ヲ聚テ眼  
前ノ手<sup>テツマリ</sup>窘ヲ弁セシコトヲ欲ス願クハ良謀ヲ  
示セ予谷曰土地ヲ經營セスレテ速ニ財用ヲ  
聚ルコトハ愚老カ能及フコト非ス然レモ已コトナ  
クハ一ツアリ此ヲ萬貨輻湊法ト名ク此法ヨク財

用ヲ聚ルト虽比治國ノ本業ニ非ルヲ以テ假令ハ  
暴雨ノ滯水ヲ為シ飄風ノ枯葉ヲ集タルカ  
如ク消散スルモ亦速ナリ故ニ君奢侈ヲ好  
ミ大臣阿諛スル國ニ於テハ絶テ施行フヘカラ  
ス是我祖先ノ家訓ナリ此法ニ三重ノ秘  
傳有テ其一ヲ合璧融通法ト云ヒ其二ヲ花利  
板還法ト云ヒ其三ヲ通移開蓋法ト云ヒ今夫  
貴藩ノ大ナルヲ以テ合璧法ヲ行ハ、年々五万兩  
ノ金ヲ聚ムヘシ此ヲ板還法ヲ行テ積立ルルハ

十年許ノ間、百万兩以上ノ大金トナルヘシ此金ヲ  
以テ開蓋法ヲ行ク諸國ノ貨財夥シク貴國ニ輻  
湊スルニ至ルヘシ抑此通移開蓋ノ法ハ昔ニ伊  
尹カ商湯王ヲ佐テ此ヲ行ヒ大ニ商國ヲ富ニ遂  
ニ復桀ヲ滅セリ其後周ノ東遷ニテ後ニ管仲  
此法ヲ行テ齊ノ桓公ヲ富ニ九タヒ諸侯ヲ合  
セ一タヒ天下ヲ匡セリ然レハ此輻湊法ハ經濟  
道ノ正法ニ非スナリ虽比有<sup>スル</sup>為者ノ行フ所ナリ  
故ニ今ノ世ニテモ上下心ヲ同クシテ此法ヲ行ハ

四ノ殿富ヲ致サニ一難事ニハ非ルヘシ大夫  
若君候ヲ神佐シテ貴國ヲ隆盛センコトヲ欲  
セハ予モ亦老タリト虽モ法ヲ執テ事ニ從ハ  
大夫其レ勉メヨマ然レモ唯其恐ルヘキハ財  
用ノ集タルヲ謾ニ萃費ニ遣ヒ尽スカ如キハ  
勞スルモ益ノ無事ナリ豈ニ益ノナキノモ  
ナラニヤ却テ後ノ患アリ昔シ愚老カ若年ノ  
時ニ誤テ先祖ノ家訓ヲ忘レ高七八千石ハ  
アリノ領主ニ頼レテ此法ヲ行ヒシコトアリ土

地ヲ領スル身上ト云者ハ信ニ尊キ者ニテ万  
石ニモ足ラサル知行一ツナレドモ愚老カ骨ヲ  
折テ道話ヲ説キ百姓共ラ涕泣感奮セシメ  
テ合壁ノ法ヲ組立シテ以テ初年ノ八ヶ月程ノ  
集金八百六十兩ニ及ヘリ此法ヲ益懇到ニ  
行ヒ且花利拔還法ヲ行テ積立ル者ナラハ  
十年許ノ間ニハ二万兩以上ノ積金出来ヘキ筈  
盤ナリキ然レモ其領主意外ニ金子ノ集リタ  
ルヲ視テ忽チ驕慢ノ心ヲ発シ毎日同黨ノ

酒伴ヲ集テ長夜ノ飲ヲ為シ吹彈歌舞  
ノ妓妾ヲ買フテ七八人ニ及ヒ奢侈放蕩  
際限マルト無シ予モ亦大ニ此ヲ驚キ嚴  
シク諫ニテ欲ニテ日夜見ニテ請トモ絶  
テ見ヘス對面セサルト一月ニ余レリ於是乎  
先祖ノ家訓ヲ忘レテ奢侈放蕩ノ主ニ賴  
レテ家法ヲ汚穢タルトノ悔ニ固ク辭去テ  
再ヒ其家ヲ訪ハス其後彼家ノ知行一ツノ百  
姓ホ領主ノ無道暴逆ヲ怒リ一揆ヲ起シ騷

動起リ上下共ニ極窮セント云 最初予カ彼  
家ノ知行一ツニ至リ 道話ヲ説テ百姓ヲ飯服  
セシメ救多ノ財用ヲ募リ淫人ヲシテ放蕩ヲ  
縱ニスルノ料トシタルハ其過モ亦甚大ナリ今ニ  
至テ此事ヲ思出ス毎ニ赧汗脊ニ溢ルニ至ル  
愧哉故ニ國家ニ主タル者ハ假令 財用ノ足  
ラサルトアリ凡嚴シク華費ヲ省キテ儉薄ニ  
務ルキハ艱難モ亦御ル者ナリ大夫モ亦大火類  
燒シテ居ルテ失ヒ道路ニ迷フ者ノ状態ヲ見ヨ

右様ノ時ニ當テハ貴賤皆一同ニ唯是雨露ニ湿  
フヲ免コ口腹ノ飢オラシメテ求ルルニ誰カ奢侈  
ヲ縱ニスルニ違ハランヤ是時ハ心ニ入定シテ儉  
薄ヲ務メト如何ナル困苦モ堪忍ツヘシ若夫レ境内ノ  
人民ヲ安集スヘキノ本心モ立スシテ速ニ財用ヲ聚  
ルハ上ニ説タル領主ノ如ク或ハ勞シテ功ノ無ノコト  
ラス却テ後ノ禍ヲ作ス<sub>テ</sub>ア<sub>レ</sub>レ大夫触ク熟察セ  
ヨ又近來諸家ニテ相催ス物益講ト各クル搭  
會アリ予其仕方ヲ審ニスルニ畢竟ハ人ヲ哄騙シ

テ金ヲ出サシムルノ新法ニテ士君子ノ行フヘキ  
トニ非アルナリ故ニ義理ニ明ナル家ニテハ往  
々ニ此搭會ヲ止ム其他豪家ノ金ヲ借り或  
百姓ヲ侵漁シテ金ヲ集ル謀ノ如キハ愚老カ  
不才ナル絶テ企及フ<sub>テ</sub>能ハサル所ナリ

文政十一戊子年 四月初吉

南總大豆谷隠士

佐藤百祐信調述



Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is faint and difficult to decipher.

元治元年

元治元年

